

富弘美術館の大ファンでした。
今回は『星野富弘メモリアル』と題して、富弘美術館の朗読グループ『杲（ひので）の会』も出演。ロビーでは富弘さんの作品や写真なども展示いたします。チケットには富弘美術館の無料鑑賞券付き。前売券はグンエイホールPALL、大間々図書館、みどり市東公民館、さくらもーる、桐生市市民文化会館で販売中、足利屋でもお買い求めいただけます。

虹の架橋

詩情音楽

星野富弘

メモリアル コンサート

「音で想いをつなぐコンサート」



小耳にはさんだ いい話

(文責・靖)

《354》

『吾輩は銅』

き出しで始ま
輩は猫である

カルテット・エスペラント +

2025. 3. 9 日

開演 14:00 開場 13:15

会場 グンエイホールPAL
(※銀葉文化ホール)

〒270-1212 千葉県市川区新井町1丁目1番地1号(市川駅西口徒歩3分)
一階・観覧 ¥1,500/mo 後席 / ¥2,000/mo 前席
最前列以下一階席・通席とも500円/mo

※当日の演奏内容は変更される予定です。
※公演終了後は観客が希望する場合は、後席の座席を交換することができます。
※お申し込みの際は必ずこの告知事項をお読みください。

チケット 発売開始日	2025年 1月9日(木)	窓口販売 / 9:00~ 発売終了時 / 13:00~
---------------	------------------	--------------------------------


指揮者
星野 洋


ピアノ
比佐 幸平


ヴァイオリン
加藤 航


チェロ
伊見 貴士


パーカッション
中里 みのり


ボーカリスト
ビル・ユウヴェーリー

プレイガイド

- ★グンエイホールPAL TEL.0277-73-1212
- ★「芸術文化センター」TEL.0277-73-0707
- ★大塚・国府前 TEL.0277-73-0707
- ★みどり音楽広場 TEL.0277-97-2721
- ★さくらホール TEL.0277-736666
- ★美空市井文化会館 TEL.0277-22-9999
(所在地市井文化会館)

Program

- ロッシニ／フルート四重奏曲
- ビヤフアンタンゴ組曲
- 聖川 清／組曲「秋の花」
- 関川 秀／後の歌のこゑに
- 久石 譲／「千と千尋の神隠し」組曲 ヨコ

※本楽団は、楽譜にはないことを得意としています。

全席 無料

全席 無料

全席 無料

グンエイホールPALに直接問い合わせ
TEL.0277-77-1212

全席 無料 サウンドクラス 協力 音楽家の路





チケットに富弘美術館
無料鑑賞券がついてきます！

展覧会の展示内容
毎品販売もいたします！

星野富弘メモリアルコンサート
 ☆3月9日(日)14時開演 (13:15開場)
 ☆グンエイホールPAL
 ☆前売券 一般1,500円 当日2,000円
 (高校生以下は前売当日共500円)
 前売券は足利屋にもあります。

小耳にはさんだ いい話
(文責・靖)
《354》

き出しで始まり、夏目漱石の『吾輩は猫である』の小説と同様に銅の視点から日本の歴史や文化、経済を解りやすく紹介しています。

次々に銅山が発見され、天平十七年（七四五）に聖武天皇の発願で奈良の大仏が鑄造され、五二〇トンの銅を使って完成、開眼供養を行いました。

るから機械も電
話も電灯も電車
も使えるのであ
る」と自慢してい
ます。

『鉦夫之友』を編集復刻し
た太田の坂本寛明さんは

初午の空の白いや五
足利屋の裏庭には屋敷
稲荷があり、祖父の代か
ら毎朝、ご飯とお水をお
供えして祀っています。

巴旗

マイトリ一学園大間々南幼稚園の教頭先生。ご夫婦で虹の架橋を愛読してくださり、光子さんは「自称・やっちゃんを囲む会の会長」を公言しています。

『吾輩は銅である』は、大正初期に足尾銅業所が発行した社内報『鉱夫之友』に連載されたお話です。『吾輩は銅である。吾輩は日本の銅である。生立った所は、元来草や樹に覆われた巖の底であるが、だんだん人間というものに見つけられ、つれ出されて、今では世界各国到るところを住家としている。ずいぶ人間が吾輩を重宝がる。吾輩をなくてはならぬ物のように言う。そこで吾輩も金属仲間では幅を利かしている。』という書

種の神器」の銅鏡（八咫鏡）が登場し、仏教の伝来とともに仏像が造られるようになり、銅の需要は日増しに増えてきました。日本で初めて銅が発見されたのは武蔵国秩父郡で、元明天皇はまず年号を和銅元年（七〇八）と改め、銅の発見者三人には国司以上の位を授け、日本国中の罪人に大赦を下され、高齢者は物を賜り、「和同開珎」という銅銭などの铸造も始まりました。その後、全国各地で

足尾銅山が発見されたのは江戸時代初期の慶長一五年（一六一〇）で、当時三十四ヶ所あった銅山の中で足尾銅山が一番産出量が多くなりました。

この本の中で『銅』は『二十世紀は機械の文明であり、電気の文明である。』しからばこの電気をやった力に取つたりできるのは吾輩の力によるのだ。吾輩が身を絲の如く伸ばし繋いでい

つ面白い内容が明るく思っています。これを読むことで社会での行動意欲に繋げてほしいという思いで復刻しました」と書いています。

『吾輩は銅である』と、坂本さんの著書『みんなに役立つ足尾銅山の歴史』は足利屋でも販売中。是非読んで下さい。（各二百円）

「稲荷大明神」と書かれた幟や五色の旗を奉納して家の「守り神」への感謝の気持ちを表します。

毎朝、神棚や恵比寿・大黒、仏壇にお供えしたご飯は翌朝、稲荷様の周りに撒き、雀がご神木の楠の枝や祠の屋根で待っています。

鳥たちにとっても稲荷様は命を護つてくれる存在でもあります。

初午は二月六日。五色旗は東町花輪の足利屋で販売しています。

A photograph of a river at dusk. The sky is a deep purple with a thin crescent moon visible near the top center. The horizon shows a bright orange and pink glow from the setting sun. Silhouettes of trees and buildings line the banks of the river, which reflects the colors of the sky. A small, dark rock is visible in the water in the foreground.

『月と月影』松崎靖
今月の写真 ≪354≫

やつ
靖ちゃん日記

令和七年一月十九日(日)

大間々博物館の次の企画展「戦争がもたらすもの」に展示する資料を頼まれて、戦争中の写真やハガキなどを博物館に提供した。松崎家では昭和十七年に父が、十八年に弘平叔父が、十九年には豊作叔父が十六歳で出征したが三人とも生きて帰って来た。

父がシベリアから出したハガキには、「モウ、タカツドノアタリモ、コウヨウデ、モレイデショウ。ナガメハ、アイカワラズ、ヤツテオリマスカ」とタカカナで書いてあった。

ながめ余興場では戦争中、出征兵士を送る会が開かれた。父がシベリアでの強制労働に耐えられたのは、「生きて帰って、また家族でながめに行きたい」という強い思いがあったからかもしれない。「シベリアのことを思えば何でもねえ」が口癖だった。寒いのにストリープもつけずに鼻水を垂らし、「一日や二日食わなくても大丈夫」と言いながら、ポテットに羊羹やどら焼を交互に入れていた。今、親父と同じことを自分かやっている。



♡ やつちやんの以顔絵提供… ひさかさん